

（仮称）新潮観荘整備事業の基本方針【概要版】

1. 目的

平成25年10月、市長3期目政策公約において、『種差海岸の魅力を高めるため、吉田初三郎をはじめとする種差ゆかりの文人墨客記念館「新潮観荘」の建設を進める』ことが提示された。

その後、観光案内機能や支所機能等を有した複合的な施設「（仮称）新潮観荘（以下「新潮観荘）」の整備について、これまで関係課を交え検討してきたところであるが、あらためて整備に伴う法律的な課題や周辺の既存施設との機能整理など、さまざまな観点から事業実施の可能性について検討したものである。

2. 事業検討のための要件

さまざまな観点から事業の可能性を検討するため、次の4つの要件から事業の検証を実施。

- ① 法律的要件：各種法律による規制をクリアしていること
- ② 立地的要件：安全かつ魅力的な場所に立地し、周辺施設と機能面の整理がなされていること
- ③ 内容的要件：市内類似施設と内容や規模の面で整理がなされていること
- ④ 財政的要件：事業の費用対効果が十分に確保されていること

効果的な
事業の検証

3. 各要件の整理

それぞれの要件から考察した結果、下記のような課題や事業の方針が考えられる。

① 法律的要件

- ▶ 各種法令により様々な規制があるものの、種差海岸周辺への施設整備は可能である。
- ▶ 潮観荘跡地は、一部が土砂災害警戒区域に指定されているほか、土砂災害特別警戒区域に隣接しており、開発行為が制限されることから、当時と同じ位置に同じ規模で整備することは困難。

② 立地的要件

- ▶ 潮観荘跡地は、一部が津波浸水想定区域や土砂災害警戒区域に指定されており、安全面で課題があるほか、アプローチや眺望の面でも課題がある。
- ▶ 潮観荘跡地は現在私有地のため、市有地に比べ権利関係が不確定である。
- ▶ 既存の観光施設との機能整理が必要となるほか、周辺の公共施設が建替え期を迎えていることから、施設の複合化・多機能化による整備の検討が必要。

③ 内容的要件

- ▶ 市内にある類似施設のうち、「八戸クリニック街かどミュージアム」は、所蔵作品の多さから全国的にも貴重な施設であり、中核的な位置づけの施設と言える。
- ▶ 同ミュージアムとの補完性や回遊性の観点から、新潮観荘事業では、ゆかりの文化人の功績や種差海岸との関わりなどの入門的な内容をコンパクトに紹介する手法が望ましい。

④ 財政的要件

- ▶ 効果的な事業実施の観点から、事業実施に際しては、種差地区の津波浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に指定されていない市有地に、他の公共施設との複合化・多機能化を図った施設内に展示コーナーを設け、吉田初三郎をはじめとする、ゆかりの文化人等の功績等を紹介する手法が望ましい。

4. 事業の方向性

(1) 今後の方向性

4つの要件で検証した結果、今後の事業の方向性として次のことが考えられる。

- 新潮観荘事業に際しては、潮観荘跡地での整備には、さまざまな課題があることから、種差地区内（場所未定）にて、今後予定されている周辺の公共施設の建替え期に合わせて、複合化・多機能化による整備を検討する。
- 最終的な立地場所や建替えの時期については、社会情勢や地域のニーズ、財政状況等を考慮して判断する必要がある。
- 上記方針による新潮観荘の整備着手までの当面の間は各種ソフト事業を展開することを検討する。

※ 他の公共施設との複合化・多機能化整備案を優先する理由

- ①周辺には築年数が相当程度経過した公共施設が複数あり、今後順次更新期を迎える。
- ②複合施設として整備することで、展示の内容や方法に応じた適正な施設規模の検討が可能になる。
- ③他の施設との共用化により、市有地の有効活用やランニングコストの低減化など、高い費用対効果が期待できるほか、単独施設に比べて来訪機会の増加による相乗効果が期待できる。

(2) ソフト事業の展開

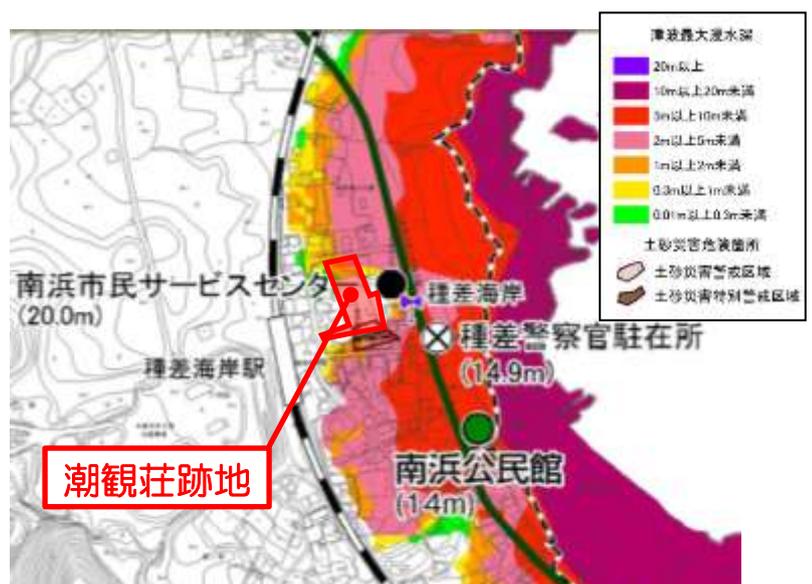
吉田初三郎はじめ種差ゆかりの文人墨客の功績や魅力に触れる機会を創出する各種ソフト事業を展開し、更なる魅力創出を図るとともに、将来の整備に向けたニーズ等を把握、検証を検討する。

ソフト事業の例	内容
展示コーナーや企画展	種差海岸インフォメーションセンター、種差海岸休憩所等での展示や企画展を実施
現地講演会	潮観荘跡地の見学、有識者による講演会等を実施
先端技術等の活用	先端技術（AR、VR、ドローン等）の活用

【参考】



潮観荘跡地の現在の様子



津波浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等

(仮称) 新潮観荘構想検討ワーキンググループ会議（八戸市観光課）